



第156回 日本産婦人科医会記者懇談会

『エコチル調査:環境省子どもの健康と環境を考える全国調査
一開始から10年、こどもの未来はどうなるのか?』

2021年10月20日

日本産婦人科医会会議室・Web 併用会議

エコチル調査:環境省子どもの健康と環境を考える全国調査から得られたもの
研究成果(産科の視点から)

「エコチル調査の始まりと妊婦登録の3年間」

日本産婦人科医会副会長 平原史樹
(元神奈川エコチル調査ユニット 責任者)



環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)の話題が...

1950-70 公害問題発生
1967 公害対策基本法
1971 環境庁
1993 環境基本法
2001 環境省

1990~ 環境化学物質が話題に
1996 シーア・コルボーン博士
「Our Stolen Future」
農薬 PCB などが人や動物に異常?
ダイオキシン、枯葉剤(ベトナム)

1996 マスメディアで一気に話題に
環境ホルモン⇒**内分泌攪乱化学物質**
動物の雌雄転換、精子が減少?
先天異常?
ヒトでの先天異常?

先進(工業)国 **尿道下裂、停留精巣**の
増加が報告され...
はたして本邦における生活環境化学物質
は生体にどう影響を与えているのか?



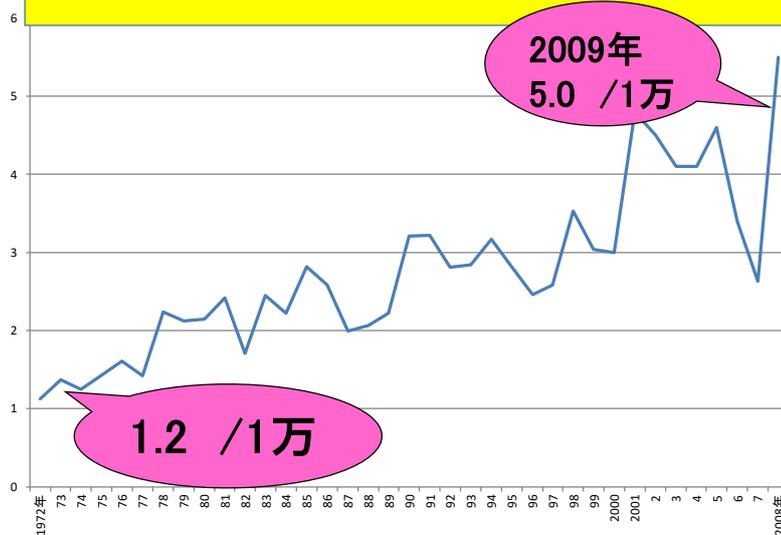


日本では尿道下裂症例は
増加しているのか？



日本産婦人科医会先天異常
モニタリングのデータは？

尿道下裂発生率年次推移(対1万児)





日本産婦人科医会(旧日母)(JAOG) 先天異常モニタリング・サーベイランス

- ・日本婦人科医会(日母)1972ー
- ・本邦における**唯一の全国レベルの先天異常調査**
- ・全国330病院協力(病院ベース)
- ・全国の出産児の10%
- ・満22週以降, 生後7日以内

横浜市立大学の国際先天異常モニタリングセンターで解析研究

- ・ICBDSR(国際先天異常監視研究機構)の日本支部
- ・調査は4半期ごとに国際先天異常監視機構本部
報告・情報交換・非常時の警告発信



- 子どもを取り巻く生活環境リスクが増大している?
- 環境中の有害物質に対する関心のたかまり
- DOHaD* Barker 説 “胎児期や生後早期の環境と将来の健康障害” ほか

- ⇒ 2007年10月「小児環境保健疫学調査に関する検討会」環境省
2008年3月 環境中の化学物質の影響を検出することができる大規模な
新規出生コホート調査の立ち上げを提言
- ⇒ 様々な専門家による環境と健康に関する研究組織(環境省主導)
住吉好雄先生(元日本産婦人科医会常務理事)が参画
- ⇒ 上記検討会等に平原史樹(横浜市立大学教授・横浜市大国際先天異常
モニタリングセンター長)が参加
- ⇒ エコチル調査(環境省子どもの健康と環境を考える全国調査)
2011年1月開始へ

* DOHaD : Developmental Origins of Health and Disease





2009年～2010年(準備期間中の拠点による検討)

- 全国15拠点の(産科・小児科・疫学)メンバーが熱い議論を展開
⇒ 様々なアイデアが出て熱心に議論された・・・
各地域の産科医の団結力のもとエコチル開始(2011年1月)

2011年3月11日 東日本大震災

2011-2013年までに10万組の妊娠例を登録(病歴、経過、検体収集等)

- ・妊娠期から出産～13歳までの発育・成育の調査へ(Birth cohort研究)
- ・あわせて母児の環境化学物質の曝露状態等の調査も実施

⇒ “あなたと赤ちゃんがこどもの未来と環境をプロデュース”

- 被験者へのお願い;各地の産科施設が大奮闘(熱意)
- 調査継続(13年間)のお願い ⇒ 驚異的な追跡率

心身障害児を
応援する  公益財団
おぎや献金



まとめ

エコチル:環境省子どもの健康と環境を考える全国調査の開始・継続、
そしてさらなる展開(成育基本法・基本方針)にむけて

- 開始時の全国各ユニットの産科拠点・小児科拠点(疫学他)の熱意と努力
- 本邦初のBirth cohortに着手し、継続・維持に努める環境省・国立環境研究所、
メディカルサポートセンター、各地の行政等の尽力
- 地道に本邦の先天異常モニタリングに協力し、妊産婦の診療にあたった
全国の会員、医療機関の貢献

に感謝し、さらに

- 妊婦さんと夫、さらに生まれた我が子も加わりこの重要な調査に参加されたこと
に深く感謝し、本プロジェクトがなお一層発展することを期待したい

心身障害児を
応援する  公益財団
おぎや献金